

平泉寺世界遺産講演会

松浦晃一郎氏（ユネスコ前事務局長）講演会

—白山・平泉寺世界遺産登録に向けて—

平成24年4月17日（火）勝山ニューホテル

<要約>

東京には感じられない「自然との共生」が大事です。ユネスコでは議長と事務局長をやりました。世界には936の世界遺産があります。日本には16の世界遺産があります。ユネスコにおいても自然との共生をしていくことが重要と認識をしている。18世紀からのヨーロッパの歴史は自然を支配し、克服することだった。日本は縄文時代から「自然との共生」を重視してきた。山を大事にすることは西洋にはなかった。アジアだけにある。動物は支配できても自然を支配することはできない。西洋の知識人は未だに自然の支配を考えている。しかしながらだんだんと自然との共生がわかりつつある。ユネスコではエコパークと称する人間と生物圏が共に生活する関係をつくることを考え進めている。白山国立公園は自然界・生物を含めて守っていくものである。白山国立公園をエコパークとして保全していただきたい。今後は動植物の多様性を保全してゆくことが重要である。2007年アメリカの経済誌「フォーブス電子版」において「世界で9番目にクリーンなまち」として勝山市が評価されました。白山の生物の多様性を守って行くことが重要であり、また外来生物から脅かされないよう排除して人間と生物圏が共生して行くことが重要である。

第3回地球サミットがブラジルで開催されます。第1回は1991年ブラジルで、第2回は2001年南アフリカ・ヨハネスブルクで開催されております。大きなテーマは生物の多様性の保全と温暖化対策である。

ユネスコが行っている地質遺産でジオパークがありますが、福井は日本で一番恐竜の化石が出ており、ジオパークに認定されている。白山を世界遺産に登録することは望ましいことであると思っている。世界遺産の制度は40年前に始まったものであり、日本は1992年に批准し、今年で20年目になる。40周年行事を日本の京都で開きます。（私の）最後の締めくくりをどうやって成功させるべきか考えている。世界遺産について継続可能な開発と地域社会の役割として議論していきたいと考えている。世界遺産を顕著で普遍的な価値として人類全体の宝として次の世代へ引き継いでいくことが重要と思っている。

持続可能な社会と地域社会の役割を盛り込んだ「京都宣言」を発信したい。日本の世界遺産活動は20年遅れですが、どんどん世界遺産が誕生している。現在富士山と鎌倉が登録審査に上がっている。平泉寺は差し戻され、3年間どうするか検討してきた。しかし3年間空白ができることは支障が大きいので出さないようにしたい。今年の世界遺産最終審議で最終結果が出る。

白山はどういう位置にあるのかですが、白山は福井、石川、岐阜にまたがっているので、そこでの十分検討が必要である。まだ暫定リストに載っていないが、現在暫定リストに載せたいものが10ほどある。まず暫定リストに載せることが重要である。以前の提案書を見直して文化か、自然かあるいは複合か専門家にしっかり再調査・検討していただく必要がある。信仰に絞るのであれば信仰としてしっかりした説明ができるものにしなければいけない。しっかりした建造物が残っているかが重要となる。平泉寺は一向宗に焼かれて無くなっているのが残念だが、他の地域にもあるようです。白山信仰に密接に関係した建造物が重要である。東北平泉は浄土思想が中核となっている。奈良は奈良時代のもので多くあり、京都は安土桃山時代からの京都文化がある。独立した文化圏として認められるかが重要である。白山の山岳思想として吟味して絞り込みをする必要がある。山岳思想はニュージーランドのトンガリートが初めて認められている。ここは全く開発がされていない所である。紀伊山地の山岳信仰文化圏は2004年認められた。これは審査が甘かったように思っている。富士山は信仰と芸術で提案している。紀伊山地、富士山の山岳信仰と白山の山岳信仰のどこが違うのかがポイントとなる。白山の独自性を打ち出さないといけないだろう。

最後の難関は将来に向けての保全計画が必要であることである。隠し事はだめである。白山においては県ごとではだめでひとつにしないとだめである。また本体の景観を乱すようなものはだめである。世界遺産の審査はどんどん厳しくなるが、日本はまだいいものをもっていると思う。地域社会の皆さんが意識を高めることが重要である。ぜひ早い段階で暫定リストに載せていただきたい。暫定リストに載ってからは10年はかかると思っている。地域が応援するだけではなくて参画することが重要である。

ぎふ白山自然文化研究会 水上